

熱き会計人の転機

Challenge for the New World

vol. 19

取材文／東 雄介 撮影／内海明啓

彼・彼女らが新天地で手にしたものとは？
会計人たちのリアル・レポートをお届けする

自分が生きた証を求め ベトナムで起業

——公認会計士を志したきつかけを教えてください。

蕪木 まずは、会社員になりたくないという消極的な理由がありました。医者にはなれないし、国語力がないので弁護士も無理。それなら会計士だろうと。

ただ後になって、財務会計の専門家として活躍している中学高校の先輩に、こんな話を聞きました。「お金は人間を幸せにするための道具なのに、お金に人間が振り回されている。会計は人間がお金を支配するための道具だ。だから自分は会計を勉強している」。カッコいい！と思って、それから、私もそう言うようにしています（笑）。

医師である叔父の仕事の関係で、ベトナムには大学在学中に10回は行きました。早くから「この国で仕事がしたい」と思っていました。当時のベトナムは、今では考えられないほど貧しい国でした。でも若くて活気があり、文化的にも馴染みやすい。それに私は、学校ではずっと落ちこぼれ。いつも周りには自分より優秀な人間がいました。



15年連続の増益

——独立後、経営は順調だったのでしょうか。

蕪木 アンダーセン時代からの付き合いもあり、独立初年度から仕事はたくさんありました。利幅の薄い仕事ばかりでしたけどね。当時の私はまだ30歳と若く、同業他社もほばいない時代でしたから、お客さまには可愛がってもらいました。

ただ、グループの全体の年商が8億円超まで成長するとは思っていませんでした。私自身は基本的に怠け者なんです。でもパートナーやベトナム人のスタッフが頑張ってくれている。私が余計なことをして邪魔をしなれば、勝手に会社は伸びていくものだと思います。

幸運だったのは、私がベトナム公認会計士の資格をとってから5年間、同業他社が出てこなかったことです。ビッグ4がうちをクライアントに紹介してくれたくらいですからね。超ブルーオーシャンの環境のなか、大手企業をお客さまにできました。今、800社超ある顧客のうち半分程度は上場企業あるいはそれに準じる規模の企業です。

——今後の戦略は？

蕪木 今、ベトナムのハノイ、ホーチミン、ビンズン、カンボジアのプノンペン、東京に拠点があります。会社規模を拡大していくつもりは特にないのですが、今ある強みをより強くして、今のお客さまとより深く付き合い、自然と大きくなるものだと思います。当社に

ベトナム・カンボジアへの進出を目指す国内企業を徹底支援。期待を超える結果と成果を約束。

株式会社I-GLOCAL代表取締役 公認会計士
蕪木 優典 ●46歳



でもベトナムは誰も手をつけていない、ここなら勝てるかもしれないと思っただけです。

——アンダーセン時代にベトナムに駐在されました。

蕪木 それもたまたまなんです。就職してから、久しぶりにベトナムに遊びに行った時、ホーチミンにあったアンダーセン

の事務所を訪ねて写真を撮影しました。そうしたら後になって、「実は後任の駐在員を探していた」と連絡がきた。日本でやっていた監査の仕事にも飽きていたころでしたから、「行きます」と即答。駐在中は日系企業のベトナム進出支援をしていました。そのほかにも、相談がくればな

んでもやりました。ベトナムの飲み屋の場所まで聞かれた。本当に楽しかった時期です。

独立したのは、ベトナム出向から3年後。2000年には日本人第1号となるベトナム公認会計士の資格をとっていました。01年にアンダーセンが解散した後、日本に戻る選択肢もあつ

しかなかったことがたくさんあります。例えば、ベトナムで監査役監査を頼む場合、日本人のベトナム公認会計士が在籍する当社は安心できるようで、多くの実績があります。日本語が流暢なベトナム人コンサルタントも増えてきました。日本企業のお客さまにしたら、コミュニケーションが楽なんです。

——ベトナムの今をどう見えていますか？

蕪木 ベトナムのほうが仕事をしやすい、進んでいると思うことがいくつもあります。何しろベトナムの平均年齢は30歳弱。うちのスタッフも皆若く、優秀です。日本から進出してくるお客さまもどんどん増えていて、高度成長期の日本のような勢い

があります。同業他社も、今では数え切れないほど増えました。そう考えると、当社もまだまだ成長期だと思います。毎年「こんなにうまくいくはずがない」と思いながら創業以来15年、増益が続いています。私が思うのは、普通にやっていたら伸びる環境だということです。だから余計なことはいらない。今の強みをより強くするだけ。そうやって当社にしか頼みにくいことをし続けることで、業界全体もよくなると思っています。

ベトナム人を新卒採用したり、ベトナム愛を共感軸にしているのも、その一環です。ベトナムで仕事をする人間にとって一番必要な要素は、ベトナムを好きになることです。時には、

飛行機を8時間待たされたり、嫌がらせをされたりと理不尽な目にあうこともありましたが、それを前向きに考えられること。そういうあり方を、会計業界やベトナムに進出する日系企業に示していけば、結果は必ずついてくると信じています。

Yusuke Kaburagi Profile

1972年2月16日 千葉県柏市生まれ
1994年3月 慶應義塾大学経済学部卒業
1996年10月 公認会計士第二次試験合格
朝日監査法人(現有限責任あずさ監査法人)入所
アンダーセンベトナム(現KPMGベトナム)へ出向
2000年1月 公認会計士登録
4月 ベトナム公認会計士登録
12月 株式会社I-GLOCAL設立
2003年9月 株式会社I-GLOCAL設立
2011年10月 カンボジア公認会計士登録
家族構成=妻、息子2人、娘1人

共同経営者の視点

大きな愛情と先見の明。
「一緒に働きたい」と
思わせる経営者



株式会社I-GLOCAL
代表取締役
實原 享之

蕪木と共に、共同代表を務めています。もともと別業界にいたのですが、リーマンショックで前職の会社が倒産したことを機に、学生時代から縁のあったベトナムに行くことを決めました。その時、日系の会計事務所でも成長しているのが当社で、最も活躍している会計士が蕪木でした。入社して1年は蕪木と同じ家で共同生活を送りましたが、彼はそれこそ24時間、仕事のことを考えていましたね。寝る寸前まで仕事の話をして、目覚めた瞬間からその続きを話し始めるんです（笑）。

蕪木の魅力は、大きな愛情と、他者を成長させようとする熱意です。一緒に仕事をしたいと思わせる人間です。先見の明もさすがです。私はベトナムにいて、現場のことに集中してしまいがちなのですが、彼は日本から、ベトナムに進出する日系企業や会計業界の将来を先読みして行動してくれる。とてもありがたいです。